



視察研修 仙台うみの杜水族館

# 会報 防災だより

2016  
VOL.16  
3月31日発行

## CONTENTS

1. ご挨拶 ..... 会長 大黒裕明 2P
2. 防災士養成事業 ..... 2P
3. 視察研修 ..... 2P~4P
4. 平成27年度石油コンビナート等特別防災訓練 ..... 5P
5. 災害時要援護者支援事業 ..... 6P
6. 全体研修会 ..... 7P
7. 各消防署管内主催事業 ..... 6P~8P
8. 甲種防火管理再講習開催 ..... 8P

題字揮毫 大黒会長



## ご挨拶

八戸地域防災協会

会長 大黒 裕明

防災だより第16号をお届けします。まだそれほど時間も経過していませんので皆さんの記憶にも新しいことと思いますが、昨年十一月の始め、蕪嶋神社が全焼しました。神社は近年八戸観光の目玉にもなっていました、とりわけ宮司さんは幼少年の防災意識の教育にも熱心な方なので、第一報に触れた時には、「信じられない」というのが正直な感想でした。関係の方のご心痛はさぞや大変なこととご推察申し上げます。私たちも、「明日は我が身」と改めて心を引き締めざるを得ません。

海外に目を転じると、中東で、武力で一方的な建国を目指して世界中にテロ活動を振り撒くところばかりでなく新たに国どうしのいがみ合いが生じたり、また隣国に、原子爆弾や水素爆弾の開発に熱心なところや限りなく国土や権益の拡大に執心するところがあったり、一体いつになったら穏やかな気分になれるのかと心が塞がります。当分の間は、海外は何処も危険地帯、それどころかそこへ至る交通機関さえも安心はしてられないようで、せめて国内だけは私たちの手で守りたいと念じます。

昨年は、仙台にある気象台を訪問

し、気象観測のお話を聞くとともに機器類などの見学をすることができました。火山が膨らむとはどういうことか、地震や噴火の予知はどうしてなされるのか、気象予測の根拠はどうして集められるのかなどのお話を聞き、また殆どの計測が機器の進歩とともに高度化しかつ電子化されているのを知り、まだ百葉箱のイメージから抜け切れない頭に「喝」を入れて帰ってきました。

また昨年の暮れ、八戸消防に勤務しかつ国際緊急援助隊の医療チームとして登録している方から、ネパール救援活動の体験についてご講演いただく機会を設けることができました。高山地帯ですから寒いのかと想像していたら日中は五十度を超すこともあると聞き、自分の無知を悟るとともに厳しい条件下で任務を果たされたことに敬意を表します。高い理想を持ち、目立たなくとも社会や地域のために役立ちたい、そんな考えの人が消防隊員の中にたくさんおられることを知り心豊かになることができました。

本年も、当会は、地道に、堅実に活動を続けていきたいと考えています。皆様のご支援、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

## 防災士養成事業

当協会の事業の一環であります「防災士養成事業」として平成26年度までで41名の防災士が誕生しています。

平成27年度も、更に多くの防災士を養成するために、研修元である「株式会社防災士研修センター」と直接委託契約を結び、平成27年10月3日(土)、4日(日)の2日間の日程で八戸市(会場：八戸消防本部5階研修室)で養成講座を開講し、協会加入事業所から15名の方が受講され、資格の認定を受けられました。



## 視察研修

平成27年10月8日、9日の1泊2日で宮城県仙台市の仙台管区気象台と平成27年7月にオープンした仙台湾みの杜水族館の視察に23名の方が参加し、気象・地震・災害等について研修してきました。



# 視察研修に参加して



新郷村役場 総務課

横道 敏克

去る、10月8日、9日の2日間、平成27年度八戸地域防災協会視察研修に参加させて頂きました。今回の視察先は、仙台管区気象台ということで、防災・災害対策業務を担当し、普段から気象情報等を利用している身として非常に興味深く、また私は、一昨年にも参加させて頂いており、前回お世話になった方々との再会と今回ご同行させて頂く方々との交流を楽しみにバスへと乗り込みました。

予定時刻より前に出発し、順調に進むと思っていたところ、途中から台風23号から変わった低気圧の影響により暴風警報が発令され、強風の中、初日の研修先である仙台管区気象台へと向かいました。気象台では、業務概要・気象・地震・火山についてお話し頂きました。まず、業務概要についてですが、東北地方には宮城県の仙台管区気象台と、各県に1つの地方気象台があるほか、特別地域気象観測所、約200ヶ所の地域気象観測所（アメダス）があり、これらの気象官署においては、気象の観測、地震火山の観測やデータ収集を行うとともに、気象等に関する予報、注意報、警報及びその他の気象情報を防災機関や報道機関に提供している

とのことでした。また、仙台管区気象台は前述の業務について東北地方の気象官署を統轄する管区機関としての役割と、宮城県内を管轄する地方気象台の役割を担っており、自然災害の防止・軽減・交通の安全確保、産業の発展等に寄与するため、日夜業務を行っているということでした。このような仕事のほかに仙台管区気象台では、気象データの統計・閲覧、気象現象の証明・鑑定等の仕事も行っており、その他宮城県内には仙台管区気象台の他に仙台航空測候所があり、航空機の運航の安全を確保するために業務を行っているとのことでした。気象については、現在気象の観測に使用している静止気象衛星「ひまわり8号」は、画像の分解能は可視0.5kmと従来の2倍に向上しており、台風や大雨をもたらす積乱雲の状況を、より詳細かつ早期に捉えることができるということでした。また集中豪雨や竜巻、突風をもたらす線状降水帯については、従来の観測手段では観測の密度に限りがあり、きめ細かく水蒸気の分布を捉えることが困難であり、今後GPS等測位衛星の利用、気象ドップラーレーダーの位相情報の利用、新型ライダーの利用の研究を通して、水蒸気量の新しい観測手法の技術開発に取り組み、これらが実用化されることによって、気象災害をもたらす集中豪雨の予測精度が向上すると

のことでした。地震については、気象庁の管理する地震計を全国約300ヶ所、地震の揺れの強さを測る震度計を全国約670ヶ所に設置し、地震発生時には、研究所等の関係機関及び地方公共団体が設置した震度計（全国で合計約4,400ヶ所）のデータを集約し、震度速報や震源に関する情報、津波に関する情報等を発表しているとのことでした。火山については、110の活火山を東京・札幌・仙台・福岡の各管区気象台に設置された「火山監視・情報センター」で火山活動を監視しており、今後100年程度の期間の噴火の可能性及び社会的影響を踏まえて選定した47活火山については、噴火の前兆を捉えて噴火警報等を的確に発表するために観測施設を整備し、研究所等関係機関からのデータ提供も受け、24時間体制で常時観測・監視をしているとのことでした。説明を頂いた後、各執務室や観測機器を見学させて頂きました。日頃利用している気象防災情報について細部まで学ぶことができ非常に有意義な研修でした。

二日目の研修は、7月に開館した「仙台うみの杜水族館」を伺いました。私自身、開館後まもなく訪れましたが、その時は入場に1時間30分並び、中に入っても人波に押されて、見えたのが天井にある「ホヤ」と「リス」だけでしたので、楽しみにして参りました。はじめに、施設の概要についてご説明を頂きました。当施設は仙台市の「高砂中央公園基本計画」に基づき整備されたもので、津波避難施設となっているとのことでした。避難所としての概要は、収容人数1,500人で、非常用発電設備は72時間運転できるとのことでした。当村で想定される被害は、土砂災害、浸水くらのものですが、海岸を有している地域の方々は津波に対する防災も必要であり、そのご苦労に頭の下がる思いでした。その後、ゆっくりと館内を見学し、塩釜で昼食をとり、帰路につきました。休憩所以外で「さじを撃つ」殿方も「お花を摘む」ご婦人もいらつしやらず、順調に消防本部へ到着することができました。

今回の研修で多種多業務の参加者の皆様と親睦を深め、防災について語り合えたことは今後、業務を遂行していく中で貴重な財産となりました。研修を企画実行して頂きました事務局の皆様にご心から感謝申し上げます。



大平洋金属株式会社

山下 一支

去る平成27年10月8・9日の二日間、八戸地域防災協会視察研修に初めて参加いたしました。今回の視察研修でメインとなるのは、仙台管区気象台と仙台うみの杜水族館の二箇所、普段なかなか見学することが

きない場所なので、期待は高まるばかりでした。

仙台管区気象台では、気象予報・観測、地震火山、地球環境・海洋について教えていただきました。現在、日本では地震の監視として約1,600点の地震計と約4,400点の震度計のデータを収集し、24時間体制で地震を監視しているそうです。気象庁では、地震が発生すると直ちに地震について解析し、津波による被害のおそれがあると予想される場合に津波警報等を発表しています。

私たちは、気象庁が過去の災害のデータを元に発信している情報を得ることに満足しているだけではなりません。有事の際に正確な情報を入力し、手に入れた情報を活かして行動に移さなければ、せっかくの情報が無駄になってしまいます。

私は、東日本大震災が発生するまで津波の恐ろしさを体験したことなく、実際に津波警報や注意報が発令しても「どうせ今回も津波は来ないだろう。例え津波が来たとしても大したことはないだろう」という甘い考えを持っていました。しかし、東日本大震災を経験した今、与えられた情報を活かし、自分たちの手で自分自身を守らなければならないと実感しています。災害は、また訪れます。私たちの為に気象庁が発信してくれるデータを活かして行動に移

すことこそが、東日本大震災を経験した私たちの使命ではないでしょうか。

2日目のメインの視察先である仙台うみの杜水族館では、職員の方から水族館が津波避難施設として果たす役割について教えていただきました。うみの杜水族館は、仙台港から内陸へ約1kmの高砂中央公園内に位置し、緊急時の避難施設として1,500人が収容可能だそうです。説明後に水族館の中を見学させていただきましたが、平日にも関わらず多くの子どもたちが訪れて賑わっていました。水族館では、津波避難訓練を実施しているそうですが、1,500名の人数を想定してまでの訓練は、視察時には未だ実施できていないようでした。

商業施設において、お客様を安全且つ迅速に避難誘導をすることはとても大変だと思います。その為に、常日頃から火災が発生した場合の対応や、複数の避難経路、どこに非常食や飲料水等の装備品が置かれているか把握し、繰り返し訓練を行うことが必要です。安全第一といいながらも、実際にいつ来るかわからない災害に対して、後回しになりがちです。そうならないように私たち防災担当者が高い意識を持って、訓練を企画して実行に移すことが重要であるとあらためて認識しました。

二日間の研修でたくさんの方

学ばせていただきました。今回のような視察研修に参加することができ、八戸地域防災協会並びに八戸消防本部の方々に深く感謝を申し上げます。今回学んだことを活かし、日々の業務に反映していきます。ありがとうございました。



株式会社 北山会計事務所  
立花 隆幸

昨年10月8日から9日の2日間、八戸地域防災協会主催の視察研修に参加しました。

今回の研修の目的は、仙台管区気象台と仙台うみの杜水族館の視察で、8日早朝大黒会長以下二十三名の視察団一行は、八戸消防本部前から大型バスで東北自動車道を一路南下し、視察地であります宮城県仙台市へと向かいました。

昼食後、最初の視察地の仙台管区気象台に到着し、広報ご担当者の方からの説明がありました。仙台管区気象台では、東北地方の気象情報の発表や地震、火山の観測などを行なっているとのこと、その後三人の各分野のご専門の方々から講話をしていただきました。

その中で一番印象に残っているのは、最近耳にすることが多くなった平成25年8月に運用開始された特別警報のことでした。特別警報は、これまででない危険が迫っている時

や、重大な災害が起こる可能性が非常に高まっている時に発表されることで、発表の時にはすでに安全な場所に避難し終えていることが非常に大事だということでした。

そして、2日目の視察地の仙台うみの杜水族館は、仙台港から内陸へ約1kmの高砂中央公園内に位置し、津波避難ビルに認定されていて1,500人を収容できる施設になっているとのことでした。又、クラッカー4,500食、飲料水1,500本、毛布1,500枚が備えられているそうです。平成27年7月に開館したばかりとあり、とてもきれいな水族館でした。

今回初めて八戸地域防災協会視察研修に参加させていただき、皆様には大変お世話になりました。皆様には大変お世話になりました。そして視察研修を企画し、また同行しお世話いただいた八戸消防本部の皆様にご心より感謝申し上げます。



**平成27年度八戸地区  
石油コンビナート等  
特別防災区域総合防災訓練**

平成27年11月11日(水)、平成27年度八戸地区石油コンビナート等特別防災区域総合防災訓練が、東北電力(株)八戸火力発電所及び付近海域で開催されました。

この訓練は、2年に1回実施され、青森市・六ヶ所村・八戸市の三地区持ちまわりで実施されています。

今回、自衛消防専門部会の各事業所から多数の方が参加し、防災資器材輸送・流出油処理の訓練を実施しました。



**災害時要援護者支援事業**



平成27年11月10日(火)から12日(木)までの3日間、各市町担当課、八戸電気工事業協同組合、協同組合八戸管工事協会、(株)ユアテック八戸営業所の協力のもと、八戸消防本部と合同で高齢者世帯、障害者世帯などに住宅用火災警報器の寄贈設置事業を実施しました。

平成27年度は、八戸市・南部町・五戸町の79世帯に対し、住宅用火災

警報器(計91個)を寄贈設置しました。さらに、火気使用機器及び水回りの点検整備、たこ足配線や火気取扱などの注意を呼びかけました。この活動は、住宅火災から高齢者などの災害時要援護者の犠牲を減らし、安全で暮らしやすい日常生活の維持に寄与するとともに、災害のない明るい町づくりの推進を目的としています。

今後も、計画的に実施する予定となっておりますので、会員皆様の御協力をお願いいたします。



**全体研修会**

平成27年12月4日(金)、八戸グランドホテルにおいて、八戸消防署河原木分署に勤務する消防士長 山本大樹氏を講師に招いて全体研修会を開催しました。

山本氏は、平成24年に国際緊急援助隊医療チームの登録隊員に認定さ

れ、平成27年4月に発生した、ネパール大地震に伴い同年5月ネパールに派遣された際の体験を、「ネパール地震災害に



おける国際緊急援助隊活動について」と題し講演していただきました。講演中、ネパールの現場映像放映もあり、参加者全員が口をそろえて「とてもいい研修だった」と言っていました。

研修後は、同会場で懇親会を開催し、会員間の親睦を図りました。



## 八戸消防署ブロック 第8回防災活動交流会

毎年恒例となり、今年で8回目となる八戸消防署管内の防災活動交流会を平成27年9月25日(金)に開催しました。

今回は、八戸パークホテルを会場に、八戸消防署管内の会員53名、職員25名の総勢78名が参加し、避難所運営ゲーム『HUG(ハグ)』を実施しました。



避難所運営ゲーム『HUG』とは、大災害が発生した際における避難所の運営を模擬体験するため、平成19年に静岡県で開発されたゲームで、H(Hinanzyo 避難所)、U(Unei 運営)、G(game ゲーム)の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる(HUG)という意味になり、避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられたとのこと。

ゲームの内容は、プレイヤー(避難所運営担当者)として、6名ずつのチームに分かれ、避難所に見立てた小学校の体育館、校舎、校庭などの平面図に避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれた『避難者カード』をどれだけ適切に配置できるか、そして避難所で起きる様々な出来事にどう対応していくのかを模擬体験するものでした。会員は、次々に配られてくる避難



さんは応接室へ」などチーム内でも活発な意見を出し合いながら議論していました。さらに、救援物資が届けられる、報道機関からの取材依頼などの出来事への対応を真剣に話し合っていました。

参加した会員の方々は、「いろいろな情報が一気に入ってくるので、判断が難しかったが実践的で今後役に立つ」、「チーム内に女性がいいたので、その意見は貴重だった」と話し、ゲーム感覚で楽しく会員同士が交流しながらも、防災の知識をより深められたと実感したようです。



## 八戸東消防署ブロック研修会

去る平成27年11月19日、八戸東消防署管内の会員を対象にブロック研修会を実施しました。視察研修会には43名が参加し、八戸LNGターミナル、八戸火力発電所を見学しました。

八戸LNGターミナルでは、東北地方最大級のLNG輸入、供給基地を見学し、北東北、道東に天然ガスを供給している説明を受けました。八戸LNGターミナルで製造されている天然ガスは、環境負荷の低減

にも優れており、設備の安全確保、安定的に確保できるエネルギーであることを知り、今後、欠かすことの出来ない貴重なエネルギーだとして認識して参りました。

その後、実際にLNGを使用している八戸火力発電所を見学し、東日本大震災で甚大な被害を受けたことを踏まえ、ガスタービンが設置されたこと等、説明を聞きました。

また、八戸火力発電所の歴史を学ぶことも出来、エネルギーの移り変わりや時代の流れを感じる事ができました。

視察研修会の後は、八戸シーガルビューへ移動し懇親会を行いました。懇親会には41名が参加し、情報交換をするとともに互いに親睦を深め、有意義なブロック研修を行うことが出来ました。

次回開催時には、是非より多くの会員の皆様に参加していただきたいと思っております。



八戸火力発電所内の視察状況



懇親会での記念撮影

## 八戸署・八戸東署 ブロック合同研修

平成28年2月8日から10日までの三日間、「八戸署・八戸東署ブロック合同研修」として普通救命講習会が八戸消防本部5階研修室で行われ、合計219名の方が



参加し、応急手当の基礎知識・救命手当の基礎実技・AEDを使用した応急手当を学び、講習会終了後には、修了証が交付されました。

### 普通救命講習を終えて



八戸学院大学  
坂野 仁志

今回の講習を受講して、覚えることがとてもシンプルで分かりやすいと感じました。以前受講した講習では、「見て、聞いて、感じて」の確認や、胸骨圧迫を行う際に注意する点が多かった印象がありました。しかし、今回の救命処置で「胸骨圧迫」や「人工呼吸」を迅速かつ正確に行うことが重要であると改めて知ることができました。また、今回の実技では、インストラクターの方が分かりやすくポイントを教えてくださり、各グループの参加者で胸骨圧迫のテンポを一緒に回数数を数えながら手拍子で行うことで周囲の一体感も生まれ、とてもよい実技だったと思います。そして、職場にもAEDがあるため、今回の講習で学んだことを活かして今後の仕事に役立てていきたいです。



いちいこ 寿楽荘

吉本 美加

今回私は、救急救命の講習を受けるのは二度目でした。

一回目の講習から今日まで救急処置をする機会はなく、今回の講習の初めに「人が倒れていたらどうしますか？」と質問された時に、どうしていいか、何をすればいいか思い出せませんでした。

でも今回怪我の処置の仕方や、胸骨圧迫の仕方を、一からまた教わり、改めて確認することが出来ました。私は介護の仕事をしているのでこれからそういう現場に立ち会う時が来ると思うので、今日学んだことを家に帰り復習し対応していきたいと思いました。

月日が経つと忘れてしまう事などあると思うので定期的に講習を受けておかなければならないと実感しました。

本日は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。



武輪水産(株)

木村 真衣子

今回、初めて普通救命講習を受講いたしました。

救急車が来るまでの救命処置を、適切に行うことが出来れば、傷病者の社会復帰率が大きく変わります。というお話があり、一般の方々が救命処置の方法を知っていること、そして、実際に行動し救命処置を行うことが、とても重要だと改めて感じました。

受講の実技で行った心肺蘇生（胸骨圧迫）は、思っていたよりも強く圧迫しなければならず、体力が必要だと感じました。出来る限り正確に心肺蘇生を行えるよう、協力者を集めることや、

明確な役割分担（救急車を呼ぶ、心肺蘇生をする、AEDを持つてくる等）そして救急隊員の方が来るまで、心肺蘇生を続けることの重要性を学びました。

また、AEDの使用方法も改めて確認することができ、会社内でAEDの使用方法を学んだことはありましたが、定期的な使用方法を確認することも行っていければと思います。

知識や経験がない場合は、迅速に行動を起こすことが難しいかもしれませんが、今回のような救命講習を受講し体験することによって、実際に、救命処置を必要とする現場に居合わせた場合も、勇気を持って主体的に行動できるきっかけになると感じました。

指導員の方々にも詳しく指導していただきましたので、とても有意義な講習を終えることができました。



スタッフィングキャロップ 有限会社

吉田 美香

今回、初めてAED講習を受けさせていただきました。AEDも間近でみるのは初めてだった私でしたがとても丁寧に一から教えていただきました。

最初は胸骨圧迫も全然出来ない状態でしたが、一連の流れを繰り返すうちに少しずつ形が出来た様に思います。

日頃から練習はなかなか出来る環境ではないですが、教えていただいたことを忘れず、もし今回教えていただいたことを実行する様な事が起きた場合は、大切な命を救う為、勇気を持つていきたいと思います。

貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

## 五戸消防署 ブロック視察研修及び 事業報告会



平成27年10月15日(木)五戸消防署管内の会員を対象に視察研修会を実施しました。

研修会には事業所及び個人会員、消防職員を含めた20名が参加し、八戸市豊洲のポートアイランドにあるJXエルエヌジーサービズ(株)八戸LNGターミナルへ向かいました。移動中の車内では五戸消防署管内の上半期、火災・救急・救助について五戸署員が概要等を説明し、車内研修という形を取りました。

八戸LNGターミナルに到着後は業務部業務課の南さん、日當さんの二人に出迎えていただき、研修室でスライド使用の工場概要説明(東北最大級のLNG輸入、供給基地)がありました。

次に、バスで工場内の各施設説明を、南さんに丁寧にしていただき、あつという間に終了時間となり、最後に集合写真を撮る際には、南さんも快く写真撮影に参加していただきました。

懇親会では、五戸消防署の亀本署

長と八戸地域防災協会五戸消防署ブロックの下館理事から挨拶をいただき、有意義な研修会を終えることができました。



五戸消防署ブロックでは、2月13日(土)16時からアピル五戸において、9事業所から9名、個人会員2名、五戸消防署員10名が参加し平成27年度事業報告会を実施しました。その後、研修会として「五戸地方の消防のあゆみ」と題し、赤坂久男副署長が講演を行い、参加した方々は熱心に話を聞いていました。研修会終了後は、懇親会を行い参加者相互の親睦が大いに図られました。



## 三戸消防署 ブロック後期研修会

平成27年3月3日（木）、三戸消防署ブロック後期研修会と題して南部町の太田屋旅館で普通救命講習会Iを開催しました。

管内の病院、福祉施設、公共施設、企業関係者の会員27名が参加し、心肺蘇生法とAEDの利用方法について学びました。

実際に人形を使用しての胸骨圧迫や人工呼吸を訓練しましたが、胸骨圧迫30回、人工呼吸2回を1サイクルとし、5サイクル実施するのは、相当な負担となることを実感したと、参加者は口を揃えて言っていました。



講習後は、受講者全員に普通救命講習修了証が交付されました。

その後、三戸消防署中村昭吉副署長から、平成27年三戸消防署管内の火災概要等についての話がありました。

研修会後には、懇親会が行われ、24名の方が参加し親睦を深め、有意義なブロック研修を行うことができました。



## おいらせ消防署 ブロック後期研修会

平成28年2月26日（金）おいらせ消防署ブロック後期研修会として普通救命講習会Iを、おいらせ消防署2階大会議室で実施し、管内の16事業所から合計30名が参加しました。

講習会では、胸骨圧迫・人工呼吸・AEDの取扱いといった実技主体で



行われ、参加者の中には、汗だくになりながら胸骨圧迫・人工呼吸を一生懸命繰り返している方もいました。

後半には、効果測定が行われ、参加者は訓練の成果を十分発揮することができ、最後は、おいらせ消防署橋向美喜夫署長から修了証が交付されました。

普通救命講習会後は、おいらせ町染屋の月見旅館に移動し、総会と懇親会が行われ、懇親会では、参加者間の親睦が大いに図られました。



## 甲種防火管理再講習開催

平成28年2月26日（金）甲種防火管理再講習を消防本部5階研修室で開催しました。

消防法により防火管理者を定めることになっている防火対象物のうち、一定規模以上の防火対象物の防火管理者は、5年以内ごとに再講習が義務付けられています。

そのため、対象者の知識・技能の更新を図ることを目的とし、八戸消防本部が主催、当協会が後援となり毎年開催しているものです。

今回受講された54名の方々におかれましては、これからも防火管理体制の充実、強化に御尽力されますようお願いいたします。

